

第2学年 生活科 単元名「生きものと友だち」

1. 目標

- 生き物の世話をしたり育てたりする活動を通して、生き物を自分たちと同じように生命ある物として大切に扱おうとしている。【生活への関心・意欲・態度】
- 生き物の住みやすい環境を考えて世話を工夫したり、分からないことを人に相談したりしながら、自分たちで工夫して活動することができるようにする。【活動や体験についての思考・表現】
- 友だちといっしょに生き物の世話をしながら、その成長の喜びを味わい、生き物も自分たちと同じように成長していることに気付くことができるようにする。【身近な環境や自分についての気付き】

2. 指導計画（14時間扱い）

めがね・虫通す 学習の振り返り	①・②時	校庭にいる生き物を探し、何がどんなところにいたのか話し合う。
	③・④時	ダンゴムシと遊んだり、虫めがねで観察したりして、発見したことを伝え合う。飼うにはどんなことを調べればいいのか、話し合う。
	⑤～⑦時	えさ、すみか、世話の仕方などを本で調べ、グループや全体で話し合い、すみかの設計図を考え飼う準備をする。 ← 学び合いの例
	⑧～⑩時	ダンゴムシについてもっと知りたいなど思ったことを決めて、観察したり調べたりする。
	⑪～⑬時	発表方法（クイズ、絵、ポスター、新聞、パズル、紙芝居、動作化等）によるグループを編成し、発表の準備、練習をする。
	⑭時	「ダンゴムシはかせ発表会」をする。

3. 第⑥時について

- 目標 ダンゴムシを飼うために必要なえさ・すみか・世話の仕方について調べたことを話し合い、ダンゴムシに合ったすみかの設計図を考えることができる。【思考・表現】

見通す 取り組む 振り返る	活動①	前時の学習を振り返り、本時の学習課題をつかむ。 今日の学習課題「ダンゴムシをかうためにひつようなことを話し合い、かうじゅんぴをしよう」
	活動②	ダンゴムシを飼うために必要なことを付箋とVチャートを活用しグループで話し合う。 T：付箋を動かしながら話し合い、えさやすみかを分類しながらまとめましょう。 C1：枯れた葉っぱや野菜くずを食べます。卵のからは、自分の体を強くするために食べます。 C2：枯れた葉っぱや石の下にいます。ぼくも葉っぱの下で見つけました。 C3：湿った所が好きだから、きりふきで湿らせてあげた方がいいです。
	活動③	グループで出た意見を全体で確認し、Vチャートに整理してまとめる。
	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: 30%;"> いろいろなものを食べるから、えさは家から持ってきてあげられる。 </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: 30%;"> えさの取りかえや土に水をかけて湿らせる等毎日の観察や世話が大事。 </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: 30%;"> 湿った所や暗い所が好き。落ち葉やコンクリートなどえさになるものの近くに住んでいる。 </div> </div>	
	活動④	分かったことをもとにして、ダンゴムシのすみかの設計図をかく。 T：ダンゴムシのすみかに何を入れたいか、話し合ったことをもとにして設計図をかきましょう。
活動⑤	本時の学習をまとめ、振り返りをする。 (Aさん) ダンゴムシをかうには、えさやすみかは大事だと思いました。ダンゴムシが喜ぶすみかを作って、早くかってお世話がしたいです。	

4. 学び合いの例について

【活動②④】：付箋の活用】

(手だて)



①主体的な学習を促す工夫

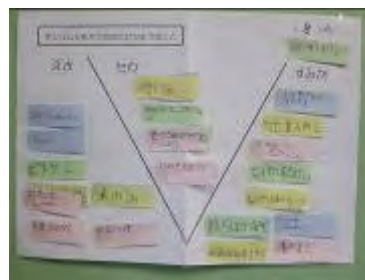
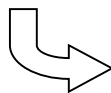
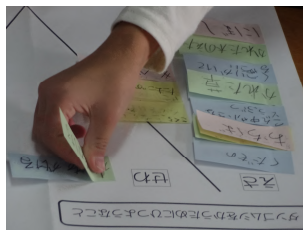
ダンゴムシのえさやすみかについて事前に調べ、目的意識を持って本時に取り組みさせる。自分なりの調べがあることにより、自信をもって話し合いに参加し、知識を広げることができる。

また、1人1色ずつ4色の付箋を使うことにより、4人の考えを可視化する。話し合いの際に付箋を重ねたり分類したり思考の操作化をする。友だちの考えとの共通点や新しい気付きなどを共有させ、話し合いに広がりをもたせる。

(留意点)

- ・操作化しやすいように、付箋には短い言葉を書き、説明をつけたすようにさせる。

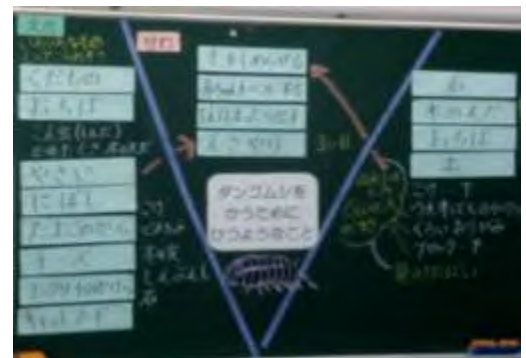
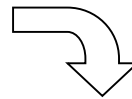
【活動②③】：Vチャートを使って分類・整理】



(手だて)

①効果的な学習形態の工夫

個人→グループ→全体の話し合いをする。まずは、自分の思いや考えをもって話し合いに臨む。



活動②では、4人の少人数グループで思考ツール（Vチャート）に分類・整理しながら、話し合わせる。

活動③では、グループで出た意見を発表させながら、分類を明確にし、全体でVチャートにまとめる。児童らの発言を関連づけて、好む場所の条件を整理する。

【活動④】：設計図の作成】

(手だて)



①根拠を明確にした話し合い

調べたり話し合ったりしたことをもとにして、ダンゴムシに合ったすみかの設計図をかく。どうして入れたいのか根拠を明確にして話し合いをする。ダンゴムシに思いを寄せて話し合いが進められるように、近くに置いて話し合いをする。

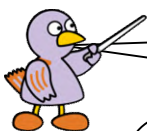
②体験につなぐ工夫

設計図を話し合ったグループですみかを作り、この後の世話も同グループで継続して行わせる。虫かごや枯れ葉や木の枝などすみか作りに必要となる実物も試しながら考えられるように準備しておく。試すことで、紙面ではわかりにくい空間を意識させる。

小学校第2学年 生活科

単元名 「生きものと友だち」

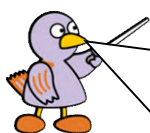
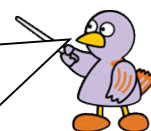
取組のワンポイントアドバイス



こうすればうまくいくよ！
実践にあたり工夫したところ・子供たちの変容の様子を教えます。

本校の実態や地域性から飼育活動を「ダンゴムシ」に設定しました。始めはダンゴムシに触れなかった児童も、つかまえて遊んだり観察したりするうちに興味をもちはじめました。全員が自分で調べられるように、ダンゴムシに関する本を図書館から借りてきて人数分準備しました。そのため、主体的に調べ学習に取り組み、本時の学習につなげることができました。

学び合う場面では、付箋を用いた話し合いを行いました。付箋を活用して貼ることにより、話すことが苦手な児童も自分の意見を伝えることができました。付箋の色を個別に変えることにより、考えが可視化され、一目で誰のものか分かるため個の考えを尊重することもできました。同じ意見を重ねて整理することで、意見の共有化も図ることができました。



T Tを活用し、担当の児童やグループを決めて支援することで、児童一人一人をきめ細かく見届けることができました。全体指導では、進行と板書を役割分担することで学び合いの時間を多く取ることができました。設計図を書く場面では、話し合う様子を2人でモデリングし、話し合う話型や活動の仕方を具体的に示すことができました。視覚でとらえられたため、話し合う活動がより活発になりました。

まとめでは、代表グループの設計図をICTを使用し投影したため、自分たちのグループと比べて説明を聞くことができました。振り返りでは、単元を通した振り返りカードを作成し、毎時間の振り返りを積み重ねることで、学習への見通しを持ちながら、次の学びに対する意欲化を図ることができました。始めはとまどう児童も多くいましたが、徐々に課題に対する振り返りや次時への思い等が書けるようになり、学習意欲が高まりました。また振り返りは、本時の児童理解や評価、次時の指導に生かすこともできました。

